



国際社会で活躍するために日本の教育で求められること

私は、日本の教育で変えるべきは、世界最先端の技術をより身近にする事と、実業ビジネスを疎かにしない事だと考えています。

一方で、変えるべきではないことは、国語教育で、母国語で深く考える力を身につけることだと考えています。

私は、中高に着任するまで、東京工業大学の博士課程でロボット創造学の研究と先端的な経営を学んできました。工学系は世界と激しく競争する日本の産業界と深く連携しており、実社会から教育界への切実な要

望に接することができました。また、世界トップレベルの研究室に所属していたため、国際的な先端教育についても知りました。

世界最先端の技術開発は、とても面白く、知的好奇心を駆り立てられる素晴らしいものです。それと同時に、世界初の有用な技術を生み出すことが研究目的ですから、起業が当たり前で、少なくとも私の親友2人は実際に起業し、指導教員も2社起業しています。就職しても待遇は良く、国際企業であれば一般的な国

内の給与レベルとは異なる給料が得られます。UCバークレーの留学生が「億万長者になりたかったら工学部に進み、起業する。新技術を生み出して、細かい経営はMBAを雇えば良い」と言っていたのがとても印象的です。日本は世界有数の技術大国で、世界トップ企業が沢山あり、良い仕事が沢山あるのに、このようなことが知られていないのは、非常に勿体無い状況です。ある英国人技術者が、

「日本は自動車メーカーの世界企業が幾つもある。英

国にはもう無いから僕は日本に来ていい」と言っていたのとは全く対象的です。

日本の教育は、技術も含めて、実社会でのビジネスと教育を分けすぎており、ビジネスに必要な知識や能力を育成する視点が弱すぎます。日本の大手企業の幹部が、2008年に帝大レ

ベルの大学幹部たちに公開の場で「先進国の大学レベルの教育を行わないと、日本の大学の卒業生を採用できなくなる」と発言した事が、日本の教育の現状を端的に表していると考えています。若者たちの将来を考えると、もっと先端技術と実業について、学ぶ機会をつくった方が良く、私は考えています。

一方で、変えるべきではないのは母国語での思考力を深める国語教育です。世

界最先端の業務レベルで勝負するには、限界まで思考力を使う必要があります。

この際に母国語で徹底的にトレーニングされた専門能力こそ、国際社会で強力な武器になります。国際社会では、英語を使えるだけでなく、英語圏のネイティブが沢山います。他の候補を凌ぐ、その人ならではの専門性がなければ、日本人を採用する必要はないのです。極論すると、先端技術など専門性があれば、それほど大した英語力が無くても、問題なく働けてしまうのです。

国と言う巨艦が進路を変えるには時間がかかります。小回りの効く、民間の力こそ改革の先鋒だと私は思うのです。生徒たちのために塾の先生と私学の我々でどんどん教育を進化させていきたいと思います。



第63回

瀧野川女子学園中学高等学校

理事・副校長

山口 龍介

Profile

山口 龍介 (YAMAGUCHI RYUSUKE)

理事・副校長

東京工業大学大学院理工学研究科機械宇宙システム専攻にて、ロボット工学の世界的研究者の廣瀬茂男教授に師事

文部科学省大学教育支援プログラムGP旧帝大東工大8大学工学系コアリッシュンフォーラム平成19年度東大・東工大合同拠点博士課程学生交流セミナー学生幹事団代表

博士後期課程在籍中の2010年に瀧野川女子学園中学高等学校に着任